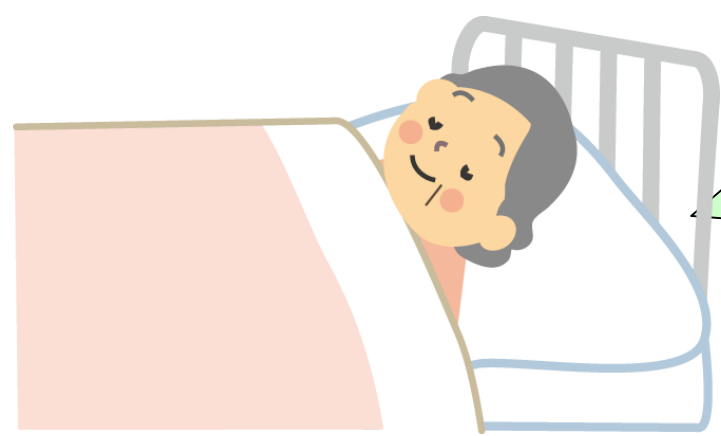


「自分のいのち、からだ」ってなんだ？ どう扱ってほしい？

, 佐藤 恵子¹、竹之内 沙弥香¹、伊藤 達也¹、児玉 聡²、鈴木 美香³
¹医学部附属病院、²文学研究科、³iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門

京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/>

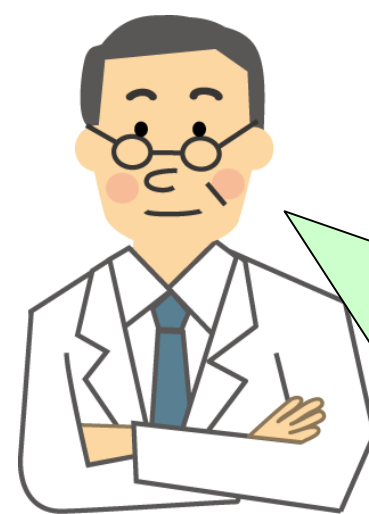
人生の最終段階における医療で起こる問題とキーワード



終末期の患者さん

生命維持装置の例

- ・人工呼吸器（呼吸を助ける）
- ・胃ろう（胃にチューブをいれて栄養補給する）
- ・人工透析（腎臓の働きを助ける）等



例：人工呼吸器による延命治療は期待する効果を得られないので、もう外してあげたいが、一度始めると簡単にやめられない。
 （かつて「殺人行為」と問題視された。）

重篤な疾患や老衰などで全身が弱り、死に向かっている状態

【安楽死】

苦痛があるとき、そこから解放される手段として死を本人が選び、医師が薬物を処方するなどによって死をもたらすこと

【尊厳死】

苦痛がなくても、「生けるしかばね」のような形だけの生命をのばす延命措置を拒否すること

【アドバンス・ケア・プランニング（ACP）】

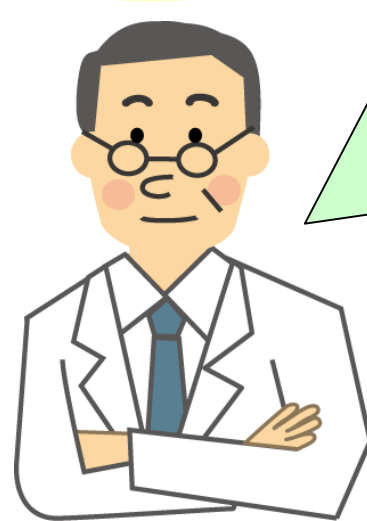
自分で判断できなくなった場合に備えて、患者・家族の価値観や目標を理解し、これからの人生の計画も含んだ治療・ケアに関する話し合いのプロセスのこと（書面に残す/誰かに伝える）

日本における現状

【厚労省・学会の指針】

終末期にある場合、

- ・本人の意思（やめてほしい）に基づき、
- ・医療者や家族などが話し合い、
- ・延命治療をやらない・中止するを決めてよい。



★問題は：

患者さんの多くが「終末期をどうしたい」という意思を表明しておらず、医療者が把握できない。

- ・市民で詳しく話し合っている人 3%
- ・医療者でも 5～9%

出典：厚労省：人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書、2018年3月

生き逝き手帖



いいね

「どうしたいか」「それはなぜか」を共有できていないと、医療者も家族も困っちゃう
 考える・話し合ってもらうためのマンガ冊子「**生き逝き手帖**」

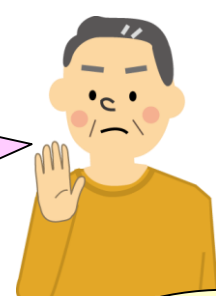
人生の最終段階：あなたは何を望む？

【仮定】あなたは治る見込みのない病で、死期が迫っている状態と診断されました。

- 家で心肺停止になり、救急病院に搬送され、人工呼吸器で命をとりとめました。
- しかし、意識は戻らず、呼吸器などをはずせば、そのまま亡くなると思われます。

延命治療を中止してほしい

延命治療を継続してほしい



②家族や医療者が自分によいと思ったことを考えて決めてほしい

①自分の意思を尊重してほしい

③学会や社会が決めたルールに沿って決めてほしい



臓器提供 どう考えますか？

★例えば、脳死状態からの臓器提供

①自分の意思を尊重してほしい

②家族の希望に沿って決めてほしい

③拒否していないかぎり提供することにより（例：欧米の一部の国）

- ・日本では、基本的に本人の意思が必要。
- ・本人の意思が不明のときは、家族が同意すれば提供可能。

自分の「いのち」や「からだ」ってどんなもの？

- ・死んでも魂が宿っている
- ・自分だけのもの
- ・死んだらただの物質
- ・家族にも属するもの
- ・遺伝子の乗り物
- ・売買するべきではない
- ・自然（親）から譲り受けたもの
- ・売買してもよい
- ・死は避けられないもの
- ・究極の理想は永遠のいのち
- ・土に帰るもの

「次世代の生命倫理学研究者・教育者育成を考える」研究会 (通称:生命倫理・勝手連)の活動

、佐藤 恵子¹、竹之内 沙弥香¹、伊藤 達也¹、児玉 聡²、鈴木 美香³
¹医学部附属病院、²文学研究科、³iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門

京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/>
平成26年度融合チーム研究プログラム(SPIRITS) 「京都大学を拠点とする領域横断型の生命倫理の研究・教育体制の構築」プロジェクト

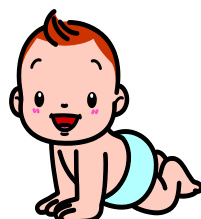
生命倫理学ってなんだ？

生まれる・歳をとる・病気になる・亡くなる・・・という**人間の営みのさまざまな問題**を、
いろいろな面から考えて、**政策提言や制度設計をする学問**です。

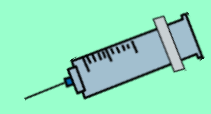
「**生まれる**」ときの**問題**：
子宮がない女性が代わり
の女性(代理母)に子ども
を産んでもらう

この50年ほどで、医療技術の進歩
により、今まで治らなかった病気が
治ったり、寿命が延びたり、よいこと
がたくさんありました

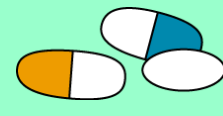
「**亡くなる**」ときの**問題**：
全身の臓器が弱っている
高齢者が、人工呼吸器や
胃ろうをつけ生かされている



【**出生前診断**】
妊婦さんの血液を調べる
ことで赤ちゃんの特性が
ある程度わかるように。
赤ちゃんが病気だったら？



【**新しい薬の開発**】
人間で試してみる必要
があるけど、
誰が実験台になるの？



【**臓器移植**】
脳死の人から臓器
をもらって生きる？
自分が「**脳死**」に
なったら、臓器を
提供する？

一方で、本当によいのかどうか
わからないこと、悩ましいこと
など新しい問題も生じています

解決するにはどうしたらいい？

技術は「あるからすぐ使ってよい」わけではない

人を幸せにするはずの技術が、かえって不幸に
したのでは困る

一人ひとりに
関わること。
だれもが考え
なくてはならない。

「日本はどういう
方針にするか」も
決めておかなくて
はいけない。

日本の伝統文化や
市民の意見も
取り入れたい。



中心になって考える集団が必要



医療、法律、哲学、宗教学、社会学・・・
の専門家のあつまり



生命倫理・勝手連

- ・さまざまな専門家のネットワーク
- ・まずは京都大学内で構築
- ・誰に頼まれたわけでもなく・・・勝手に活動

あるときは机上の空論をこねくり回し

あるときは臨床現場に身を投じ

あるときは仲間とバトル

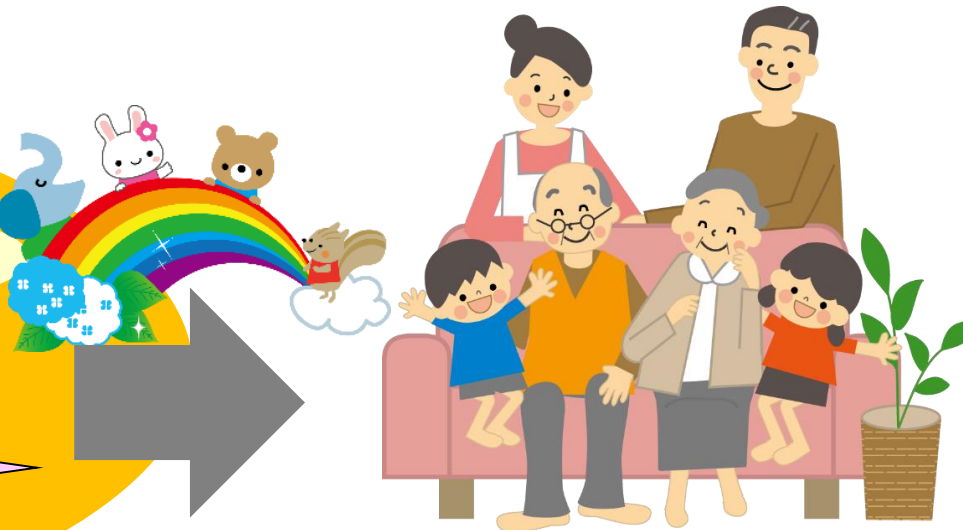
勝手連とは

学問上の論理を、現実社会での実践に！

人が祝福とともに生まれ、
健やかな生活を営み、
穏やかに旅立っていく
ためのあれやこれや



生命倫理・勝手連



取り組んでいること

- ・研究者や一般の人を集めて**研究会を開催**
- ・調査・分析・評価をもとに**提言の作成**、さらには、
具体的問題の**解決手法を開発**
- ・教育プログラムの作成や実践を通じて、**次世代
の専門家を育成**
- ・一般の人に問題を考えてもらえるための**情報
発信や対話の場を提供**

具体的なテーマ

- ・終末期の患者さんの延命治療をどう
するか
- ・病院の検査で残った血液や医療情報
を研究に利用するときどうするか
- ・研究者のプロフェッショナリズム教育
をどうするか
- ・生命倫理の問題を考えるための教育
プログラムをどうするか

勝手連のめざすもの

野望は・・・「**生命倫理・研究センター**」を作りたい！

- ・人の生命や生活を大事にする
- ・自然と調和して生きてきた日本の伝統や文化を尊重する
- ・責任ある行動を通じ、人々が共に生き活きと暮らすこと(共生)ができる環境整備に貢献
- ・それには慈悲のこころを持ち、**ぬくもりのある共同体**を作って援助し合うことが必要です
- ・勝手連自体も同様に、互いを尊重し、援助しあう、ゆるやかなネットワークが理想です



「あなたの細胞」ってなんだ？どう扱ってほしい？

佐藤 恵子¹、竹之内 沙弥香¹、伊藤 達也¹、児玉 聡²、鈴木 美香³
¹医学部附属病院、²文学研究科、³iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門

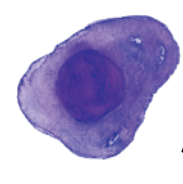
京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/>

ヒト由来試料と医科学研究

【余った試料】
・手術で切除した臓器、細胞
・検査で余った血液、尿



血液



肝細胞



血液

【研究目的で新たに採取】
・研究の目的で提供してもらった血液、尿など

①個別に同意を得る



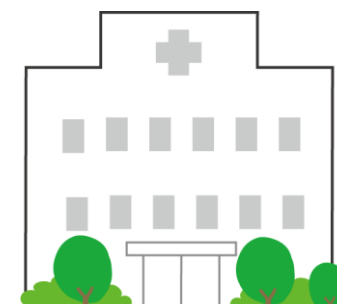
余った試料を研究に使わせてください。

研究のために血液を提供してください。

②研究利用について公開し拒否の機会を設ける

公開＋拒否の機会：

〇〇の研究に使います。
イヤな人はご連絡ください。



③研究利用について公開（個別に同意はもらわず）

公開：

〇〇の研究に使います。
・ポスター掲示やHPに掲載

【生命医科学研究の一般的な目的】
・疾患の原因や病態の解明
・新しい薬や治療法の開発（創薬研究）

【特殊な研究の例】
・遺伝子の解析 ・iPS細胞の作製

倫理審査

研究機関では、研究計画を審査した上で研究実施



・国内外の研究機関で使用。
・大学以外に、製薬企業で使用する
ことも。

あなたなら、どうする？【手術で切除した臓器や、検査で余った試料の場合】

【仮想の設定①】・あなたは初期の肝臓がんと診断され、手術を受けました。
・手術で取りのぞいた肝臓がんの細胞を、研究者が研究目的で利用することについて、どう思いますか？

使ってもよい

自分の許可がなくても自由に使ってよい

- ・破棄するものだから
- ・医学の向上に役立つから
- ・医師を信頼しているから
- ・だけど、少なくとも説明はして

自分の許可を得てから使って

- ・破棄するものだけど、私の細胞
- ・何の目的で使うか確認したい
- ・個人情報の保護の方法が気になる
- ・拒否の機会があればいい

使ってほしくない

- ・何に利用されるかわからないから
- ・誰が使うかわからないから
- ・研究者は信用ならないから

どんな条件が整ったら提供してもよい？

あなたなら、どうする？【研究目的で新たに採取する場合】

【仮想の設定②】・手術後、あなたは通院して経過観察中です。
・ある日、主治医から、「がんをはじめ、さまざまな研究のために、血液を提供してほしい」と声をかけられました。

【提供する】

- ・採血程度なら（リスク低いので）
- ・医学の向上に役立つから
- ・医師を信頼しているから

【提供しない】

- ・何に利用されるかわからないから
- ・誰が使うかわからないから
- ・研究者は信用ならないから

どんな条件が整ったら提供してもよい？

ヒト由来試料を使う研究：何が気になる？何を期待する？



- ・意義のある研究をしているか
- ・画期的な成果がでるか

【期待】・自分への還元や見返りがあるか
・研究者が法令を遵守して研究すること
・研究者が自分達自身でルールを作り行動したり、管理したりすること



【懸念】

- ・個人情報漏えいしないか
- ・身体への負担がないか
- ・悪用されないか
- ・不気味な研究とかに使われないか
- ・売買されたりしないか

あなたにとって、あなたの細胞とは？

- ・ただの「細胞」
- ・自分の分身
- ・私だけではなく、家族と共有しているもの
- ・社会で共有してもよいもの

研究者にはどう扱ってほしい？

- ・意義のある研究をしてほしい
- ・社会のルールに従ってほしい
- ・提供者がいることを覚えておいてほしい
- ・大切に扱ってほしい